

パーソナリティ

今朝は、地区防災計画「水呑学区の取組」について、水呑学区自主防災協議会副会長で水呑学区自治会連合会会長の小森弘敏（こもり ひろとし）さんに、電話でお話を伺います。

パーソナリティ

福山市内の全80学区で、昨年末までに策定が完了した「地区防災計画」ですが、どんな内容か教えてください。

小森さん

2013年災害対策基本法の改正で、地域コミュニティにおける共助による防災活動推進の観点から地区居住者が行う自発的な防災活動に関する「地区防災計画制度」が創設されました。地区の特性に応じて、想定される災害を検討し、自由な項目を織り込むことができる計画です。

福山市では、各学区の自主防災組織が中心となり、福山市のハザードマップを活用し、各学区で想定される土砂・洪水・地震・津波の災害危険区域を検討し、危険区域に居住する住民に対し、避難情報・避難準備・避難場所・避難経路・各学区内の避難所運営方法等をまとめたものです。

パーソナリティ

市内80学区の中でも、いち早く「地区防災計画」を策定された水呑学区ですが、地域としてはどんな特徴があるのでしょうか？

小森さん

水呑学区は、芦田川河口から上流西側に位置し、南北6.9Km、東西4.2Kmで、山・ため池・谷・川・海に面した地域であり、山に近い傾斜地と土地区画整理による芦田川沿いの低地を中心に、約5,200世帯、12,000名が暮らし、想定される災害は、居住場所によって大きく異なる地域です。

パーソナリティ

地域の特徴を踏まえて、「地区防災計画」の策定には、どう取り組まれましたか？

小森さん

このような地域特性から、21の単位自治会毎に想定される災害と危険区域が異なるため、「水呑学区地区防災計画」に加え、21の自治会エリア毎に、住宅地図を活用したきめ細かい「防災マップ」を策定することにしました。

パーソナリティ

具体的な、取り組み内容を教えてください。

小森さん

具体的には、2016年度に自主防災組織を改訂し、単位自治会から各1名の防災リーダーを選出、2017年度には、21の自治会エリア毎の住宅地図に、想定される災害ハザードマップから危険区域を示し、自治会毎の第一次避難場所・市指定の避難場所・避難経路・災害情報等を記載した「防災マップ」を策定し、全戸に配布しています。

パーソナリティ

「防災計画」を円滑に推進するためには、防災リーダーなどの人材育成が必要だということですね、どのように取り組まれていますか？

小森さん

2016年から、自主防災協議会の役員、各自治会から選出された防災リーダーの中から、毎年、福山防災大学に派遣し、現在、11名が防災士資格を取得、自主防災協議会の中心メンバーとなっています。このような取り組みを継続することで、自主防災協議会全体のレベルアップが図れていると思います。

パーソナリティ

防災リーダーとしての活動が「地区防災計画」策定の要であったようですが、どのように活動されたのでしょうか？

小森さん

年数回、防災リーダー会議を開催し、必要に応じ、市危機管理防災課・単位自治会会長・小中学校・保育所・消防団等学区内主要団体の関係者にも参加頂き、防災意識の共有化に努めています。さらに、「防災」をテーマにした「住民懇談会」を自治会単位で開催し、各防災リーダーを中心に、住民に対し減災への取り組みと「防災マップ」の周知を図ってきました。

パーソナリティ

そのような取り組みが評価され、広島県から「自主防災モデル組織」として選定されたようですね？

小森さん

2019年度に、広島県の「自主防災モデル組織」の指定を受け、県防災アドバイザー、県危機管理課、市危機管理防災課と共に、「大雨災害時の避難呼びかけ体制」として、防災リーダー及び諸団体と年8回の会議と学区全体の自主避難訓練を実施しました。

会議では、土砂・洪水が同時発生する大雨災害を想定し、自主開設できる避難場所の見直し、単位自治会毎に、危険区域の高齢者・避難行動要支援者・乳幼児世帯をチェックした住民連絡網を整備し、自治会毎に「大雨災害 避難情報発令時の警戒レベルと避難場所」追加版を策定し、全戸に配布、水呑学区への転居者向けに、水呑交流館にも追加版を設置しています。

パーソナリティ

地域の防災活動を担われてきた小森さんから見て、何が一番大切だと思われませんか？

小森さん

自主防災組織を含め、防災リーダー・自治会長等個々の防災活動には限界があります。よって、地域の防災力向上には、どのような事態においても「自分の命は自分で守る」という地域住民一人々の災害への備えが一番大切だと思います。

パーソナリティ

最後に、小森さんから「防災の大切さ」についてリスナーの方にメッセージをお願いします。

小森さん

私達は、残念ながら、気象・地形・地質などの自然条件から、大きな災害が起こりやすい国土に暮らしています。

このことを忘れずに、皆さんが、今住んでいる地域のハザードマップを確認し、日頃から、災害に備えておくことが、防災の要です。

パーソナリティ

今朝は、地区防災計画「水呑学区の取組」について、水呑学区自主防災協議会 副会長で水呑学区自治会連合会会長の小森弘敏（こもり ひろとし）さんに、電話でお話を伺いました。